

たより

平成22年12月17日
掬水まちづくり協議会
54号

松阪市副市長と 住民協議会との 懇談会から思うこと

十二月の行事予定	年末資源ごみ回収 12月28日(火) 8時～9時まで (但し 山添町は、7時～8時まで) 場 所 毎月の所定の場所にて回収
	凧をあげよう！ 1月9日(日)予備日1月16日(日) 10時～12時 場 所 天王山総合運動公園 (山下町側から入ってください)
	ふれあいウォーキング 1月23日(日)予備日1月30日(日) 8時～12時 集合場所 未定

市は、既に平成24年度に市全体で43地区の住民協議会を立ち上げる方針を出しています。それを受けて、この11月15日に副市長との懇談会が開かれました。副市長は「平成23年の3月までに市の協議会案を決定し、7月までに最終方針を決定したい。」と表明しました。来年3月までには各自治会への補助金を見直し、交付金として各住民協議会へ割り振る意向を示しました。そのことで、当掬水まちづくり協議会でも、24年からまとまった交付金を市より受け、いろんな協議会活動を行うことになりましたが、協議会組織として必要な心の準備は何かを、考えてみたいと思います。

私たちの協議会の部会や協議会を支える自治会（共に協議会組織）は、これまで「皆が元気で仲良く楽しいまちづくり」という協議会テーマに向かって、自分たちの地域をよくしようと、いろんな事業を、部会は地域のことを、自治会は協議会を盛り上げようと考え、共に助け合い頑張ってきました。しかし、これからは「掬水まちづくり協議会」が協議会組織としてより発展していくには次の二つを考えることが大切だと思えました。

- ① 住民にとって真の魅力な事業づくりについて
- ② 世の中の変化や新しい事態に伴う誰もが持つかも知れない痛みに対応できる体制づくりについて

また本部役員会、部会、評議員会、自治会の構成する個人について考えてみても、それは旧来の体制、考え方、行動を踏襲することに安住してはいないかひよっとしたら「順番が決まったから」等と言う意識があるのではないかといいことです。

今、私たちに問われているのは、上記のような普段誰もが持つ弱さをどこまで払拭し、行動できるかです。今一度、「地域を元気にするんだ」という強い意識を確認し、協議会に関係する全ての人が、**勇気と責任を持って、今一步を踏み出すことが大切だと思えます。**


これから各自治会でも、来年度に向けて新体制づくりの時期を迎えます。皆さんの問われる一歩がここから始まります。

みんなで 凧をあげよう！



☆草刈りのお礼☆

12月11日(土)9時より、十数名の方に参加していただき、「掬水草刈り十字軍」として運動公園の草刈りを行いました。多くのみなさんのご協力ありがとうございました！来年度もぜひ「掬水草刈り十字軍」へのご協力お願いいたします。



草刈りの様子

「凧あげ」を行います。

日 時 平成23年1月9日(日)
悪天候の場合1月16日(日)

場 所 天王山総合運動公園
(山下町側から入ってください)

お問い合わせは
榎田市民センター
Tel 28-2675 まで

※事前の申し込みは不要、参加自由です。
※駐車場あります。
※市販の凧でも、手作りの凧でも、どなたでも参加してください。
※小学生以下は保護者同伴でお願いします。
※当日の実施の有無は、榎田地区市民センターの留守番電話(朝9時以降)にて確認してください。

シリーズ自治会だより(六) これも継承される文化

清水町 西方寺住職

藤田 益朗

去る十月十四日、早朝より清水町の西方寺では、梵鐘や双盤の鐘の音が鳴り響いた。この日は前夜の雨もあがり、百人からのお稚児さんとその家族や檀信徒で西方寺は、元祖法然上人八百年大遠忌記念本堂平成大改修の落慶式で大変な賑わいを見せた。



落慶式当日の西方寺

当山の本堂は、享保十年(一七二五年)完成の建物で築二八五年を経過しており、長年の風雨や地震に耐え続けてきた建物である。しかし、老朽化は相当進んでいる状況下にあったため、これを元祖法然上人八百年大遠

忌の記念事業として、本堂の大改修を行うことになった。この檀信徒の念仏の声が染みついた本堂は、可能な限り活用できる部材は再利用をすることにして、二年の歳月を要してこの程完成を見たのである。結果、外観は一見新築同様にみえるものの、内部は慣れ親しんだ改修前の趣を残す建物となったのである。

ところで、昔から当西方寺の一大イベントには、必ず清水町に伝わってきた「双盤念仏」で行事に彩りを添えることが慣わしとなってきた。したがって今般の本堂落慶式にも、口伝の双盤念仏を行おうと、未だ残暑厳しい初秋から十五名の男衆が夜間に寺に集まり、先輩の厳しい指導を受けながら練習を重ね、式典に披露してくれたのである。このように地域に伝わる物や文化を大切にし、継承していきたいものである。

「四国八十八ヶ所霊場 歩き遍路」物語(八)

豊原町 岩塚 章

「ウヘー」 「この石段なんじやい」
今濡れた手でいただいで来た、おいしかったうどんまでびっく

りしそうな石段が天まで届いている。「歩き遍路さん最初の修行ですよ」

「いやいや今日は雨の中歩いての修行を」

「そんなの修行ではありません。この石段で四国八十八ヶ所遍路の修行さわりですよ」

「言われて見れば二日目のグチはグチでないことをいやと言うほど思い知らされるのだが全て知らぬことばかり」

「七十才で挑戦。グチの出るのはあたりまえ。弘法さんよ少しくらい言わせて下さいな」

「少しくらいのグチ言っても許してやるよ」

「あ、これで前へ進むのが気が楽になった」

ぶつぶつ言いながら三三〇段登りきった。第十番切幡寺、本堂に深々と合掌した。体は雨と汗で川の中を歩いて来たよう。下着を替えた。これから吉野川の潜水橋を十一番まで十一キロ。もう三時を過ぎていく。十一番まで歩いたら門限の五時までは無理である。鴨島駅前前三笠屋で宿を取る。

さあ今日は十一番藤井寺にお参りして山登りの難所。歩き遍路にのしかかる「へんろころがし」だ。寺の横に石標が立っている。

「是より十二番焼山寺まで十五

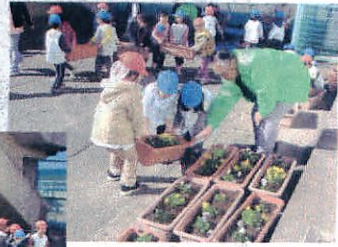
<花いっぱい運動> プランターに 花を植えました!!



12月8日(水)10時より、まちづくり協議会環境美化部・女性部と一緒に掃水幼稚園児たちが、プランターに花を植えました。

冷たい北風の吹く中、園児たちは元気よく土を入れ、肥料を施し、70個のプランターが完成しました。

このプランターは、幼稚園・小学校・各自治会へと配られます。この花を見て、みなさんの心が少しでも癒されますように…。



町「今流では十三キロ。握坂山を三山越えなければならぬ。一步の幅が三十センチ。並足で六時間。この老人七時間と計算した。」
登り出しからも息が切れる。そうです。もう老人ホームにお世話になる年です。そのオジンがこともあろうにこんな険しい山に登ったり急坂を下ったり。バカのことです。よな。

もう歩けない。こんなこともあろうかと酸素ボンベを持って来た。ペットボトルのお茶が少なくなってきた。途中三ヶ所に祠がある。その一ヶ所は柳水庵という水が湧き出ている所がある。水がこれほど、生きていくその一番欠かせない大切な水である。そこにやっと着いた。ここでも半分だ。